

長崎観光ドライバー光富がおすすめる！

長崎特別観光ガイドブック

welcome to Nagasaki



長崎観光専門・光富個人タクシー

<https://nagasaki-kankoutaxi.com/>



こんにちは

こんにちは。

私、長崎で観光タクシーを35年続けております、
地元長崎出身の光富（みつとみ）と申します。

長崎の坂道と歴史と人情に育てられてここまで来
ました。おかげさまでたくさんのお客様に「長崎
がこんなに面白いなんて知らなかった！」と言っ
ていただける機会に恵まれてきました。

この「特別スタンダードコース」は、長崎が初め
ての方でも「濃くて、深くて、心に残る」観光が
できるよう、私が長年の経験をもとに作ったオリ
ジナルコースです。

限られた時間で、でもぎゅっと濃縮された長崎を
お楽しみいただけます。

このガイドブックを読んでいただくと、ただ観光
地を「見る」だけではなく、「知って、感じて、
心に残す」長崎旅になるはずです。

それでは、光富流・長崎観光案内

「特別スタンダードコース」いってみましょう！

特別スタンダードコース **18,410円（3時間30分）**

① 大浦天主堂

さて、旅のスタートは「大浦天主堂」からです。

正式名称は「日本二十六聖殉教者聖堂」。1864年に建てられた、日本で一番古い現存するキリスト教の木造ゴシック教会です。

私が子どもの頃は、この辺りはもっと静かで、地元の子どもは坂で転んでばかりでした（笑）。この教会は昔から不思議な存在で、外国の人がよく来てるなあ、って子ども心に思っていました。

大浦天主堂が本当にすごいのは、「隠れキリシタン」の方々が、200年以上も信仰を守り続けた末に、ここで「ワレラノムネ、アナタオナジ」と神父に告白した場面です。鳥肌立ちますよ。

実際その言葉が、世界遺産登録への道を開いたとも言われています。

② グラバー園

続いては坂を登って「グラバー園」。ここは異国情緒たっぷりのエリアで、地元に住んでいる私でも何度来ても楽しい場所です。

スコットランド出身の貿易商・グラバーさん。実はこの方、幕末の志士たちに武器を売ってたという、いわば長崎の裏商人（笑）。

園内にある旧グラバー邸は、現存する洋風建築の中で日本最古。

風見鶏やベランダの作りが、当時の外国人の生活を感じさせてくれます。

あと、私のおすすめは、園内から見える長崎港の景色。

朝と昼と夕方とで全く雰囲気が違います。

ちなみに、ここには私の猫友達が住んでまして、

時々迎えてくれる“タマ（勝手にそう呼んでいます）”には癒されます（笑）。

③ オランダ坂

「なんでオランダ坂っていうの？」とよく聞かれますが、江戸時代、出島に住んでた外国人のことを、長崎の人は“全部まとめてオランダさん”って呼んでたんです（笑）

石畳の美しいこの坂は、異国情緒あふれる港町・長崎の象徴のような場所。よくドラマのロケ地にもなっています。

私が中学生の頃、この坂を使って坂道ダッシュしてたら、偶然観光客に写真を撮られて「オランダ少年」と言われたことがあります。（笑）
滑りやすいので、雨の日はくれぐれも足元にご注意くださいね。

④ 出島資料館

続いてやってきたのは「出島資料館」。長崎といえば出島、というイメージをお持ちの方も多いかと思います。

もともと出島は、鎖国中の日本が唯一、西洋と交流していた窓口。当時はオランダ人しか出入りできなかった島なんです。

実は私、若い頃に出島の復元工事にちょっとだけ関わったことがあります。木材を運ぶ業者さんに道を聞かれて案内したのがきっかけだったんですが・・・
今でもちょっとだけ「俺が建てた」って思ってます（笑）。

資料館には、当時の暮らしぶりや貿易の様子を伝える展示がたくさんあって、想像力をくすぐられますよ。ここで「昔の人も結構贅沢してたんですね～」ってつぶやくお客さん、多いです。

⑤ 思案橋（車窓）

ここからはちょっと車窓案内になります。

「思案橋」って名前、ロマンチックでしょう？

でも実は、「行こうか戻ろうか思案した橋」っていうのが由来なんです。

かつてはこの先に花街がありまして、お殿様や商人さんたちが「今日こそ行くぞ」「いや、やめとこう」と迷った場所なんですねえ。

今は飲食店が立ち並ぶエリアで、夜の長崎を味わいたい人にはぴったり。

私のおすすめは、路地裏の小さなちゃんぽん屋。昔から通ってる店なんですけど、いまだに「タクシーの光富さん！」って迎えてくれるのがうれしくてね。

⑥ 坂本龍馬像

さて、お次は「坂本龍馬像」です。

風頭公園ではなく、こちらは丸山公園にある龍馬さん。

長崎と言えば龍馬、龍馬と言えば長崎というくらい、彼とこの地のつながりは深いんですよ。

丸山は江戸時代、花街として栄えた場所で、龍馬さんも商談や交流のために何度もこの辺りを訪れていたとか。

今ではその縁を偲んで建てられた銅像が、公園の一角で静かに佇んでいます。

特にこの像は、史跡料亭「花月」のすぐ前にあります。

花月は龍馬も訪れたとされる由緒ある料亭で、龍馬が残したとされる「刀傷の柱」なんてものもあるんですよ。

お客様によく「風頭の像よりちょっと若く見えますね」なんて言われます。

確かに角度によってはちょっとイケメン度が増してるかもしれません（笑）。

近くには料亭跡や石畳の道も残っていて、当時の面影を感じることができます。

歴史に興味がある方はもちろん、龍馬ファンの方にはぜひ見ていただきたいスポットです。

⑦ 崇福寺（車窓）

次にご案内するのは、車窓から見える「崇福寺（そうふくじ）」です。

中国から渡ってきた黄檗宗（おうばくしゅう）のお寺で、長崎の唐人文化を色濃く残しています。

車の中からでも、あの独特の朱色の門はしっかり見えますよ。

初めて見る方は「ここ、日本ですか？」って驚かれるほど異国風な建築。

私が子どもの頃、遠足でこの門の前まで来た時に、あまりに堂々とした門構えにびびって入らなかった記憶があります（笑）。

時間があれば中もご案内したいくらい、彫刻や装飾が見事です。

お寺好きな方は、ぜひ次回の旅でゆっくり訪れてみてくださいね。

⑧ 眼鏡橋

さて、長崎のシンボルといえば「眼鏡橋」。

川に架かるアーチが水面に映って、まるで眼鏡のように見えることからこの名前がつけました。これは日本で最も古いアーチ式の石橋で、国の重要文化財にも指定されています。

この橋、実は大水で流されたことがあって、当時「石を拾ってこよう運動」みたいな話で盛り上がってました（笑）。

今では地元の人でも散歩がてらに渡る名所。

近くには「ハートストーン」と呼ばれるハート型の石もありますので、ぜひ探してみてください。

カップルで見つけると幸せになるとか...ね。私？ 仕事中にこっそり見つけました（笑）。

⑨ 鎮西大社 諏訪神社

次は「鎮西大社 諏訪神社（すわじんじゃ）」へご案内します。長崎っ子には“おすわさん”の愛称で親しまれていて、長崎三社のひとつに数えられる由緒ある神社です。ここの石段、なかなかの段数があります。

観光で来られたお客様が「これ、登ったら今日のカロリーゼロになるやつですね」と言ったのは名言でした（笑）。

でもご安心ください。今は階段を上らなくても、車で一番上まで行けますので、足腰に不安がある方も無理せずお参りいただけます。

毎年秋に行われる「長崎くんち」の舞台としても有名です。

あの龍踊（じゃおどり）や船回しは、間近で見ると本当に圧巻です。

境内からは長崎市内が一望できますし、パワースポットとしても人気。私も仕事前にここで参拝することが多いんです。

交通安全と、今日のお客様に恵まれますようにってね。

⑩ 日本二十六聖人殉教地

次に訪れるのは「日本二十六聖人殉教地」。

西坂公園にあるこの場所は、キリスト教が禁じられていた時代に、信仰を捨てなかった26人が処刑された歴史の地です。

私が初めてこの場所の意味をしっかりと理解したのは、観光ガイドの勉強を始めた頃でした。

命を懸けて信仰を守った人たちがいたという事実には、衝撃を受けたのを覚えています。

モニュメントには、それぞれの殉教者の名前が刻まれていて、今でも国内外から多くの巡礼者が訪れます。

静かで落ち着いた空気が流れるこの場所では、つい自然と背筋が伸びますね。

観光だけでなく、自分と向き合うひとときにもなる場所です。

⑪ 一本柱鳥居（車窓）

続いて車窓からご覧いただくのが「一本柱鳥居」です。

もともとは両足のある普通の鳥居だったのですが、1945年の原爆で片側が吹き飛ばされ、それでも残った一本の柱が、今も堂々と立っています。

長崎の人間にとっては、これこそが“生き残った証”であり、戦争の記憶を静かに語り継ぐ存在なんです。

観光中のお客様に「なんで片足なんですか？」と聞かれて説明すると、みなさん必ず黙って見入られます。

私も毎回、心の中で手を合わせています。

あれは観るというより、“感じる”場所ですね。

⑫ 原爆資料館

続いては「原爆資料館」。長崎に来たなら、一度は足を運んでほしい場所です。

私自身、ここを何度案内しても胸が締めつけられる思いになります。

原爆の威力、被害の実態、そこにいた人々の暮らし——ただの展示ではなく、そこには“声”があります。

以前、外国からのお客様をお連れした時、「涙が止まりませんでした」とおっしゃっていたのが忘れられません。

でも悲しみだけで終わらないのが、長崎の強さ。

展示の最後には、復興の歩みや、平和への誓いがしっかりと語られています。

できれば、ゆっくり時間をかけて見ていただきたい場所です。

長崎の本当の姿に、きっと出会えると思います。

⑬ 原爆落下中心地公園（車窓）

こちらは1945年8月9日に原爆が投下された正確な地点を示す公園です。
今は静かな空間ですが、あの悲劇の瞬間を忘れないために大切に守られています。
車窓から眺めるだけでも、長崎の平和への強い願いが伝わってきます。
お客様にも「ここが歴史の生き証人なんだな」と
感じていただけたと思います。

⑭ 平和公園

平和公園は長崎のシンボリックな場所。
原爆犠牲者の慰霊と平和祈念を目的として作られました。
公園の中央には、よく知られる「平和祈念像」が立っています。
両手の片方は天を指し、原爆の脅威を表し、もう片方は水平に広げて平和を表現
しています。
地元の私も、訪れるたびに新たな決意を持って帰ります。
ぜひ、ゆっくり歩いて祈りの時間を持ってほしいですね。

⑮ 如己堂（車窓）

ここはキリシタンの信仰を守り続けた人々の強さを象徴する場所です。
車窓から見える建物ですが、静かな空気感が心に染みます。

実は、私も若い頃にこの近くでよく遊んでいて、
友だちと「次はあそこ行こうぜ」なんて話をしていました。
そんな思い出も詰まった場所です。

⑩ 浦上天主堂（車窓）

最後は浦上天主堂です。

原爆で一度は破壊されましたが、今は美しく再建され、長崎の復興の象徴となっています。

この教会を遠目に眺めながら、「長崎の人は強いなあ」といつも感じています。

ここでコースは終了となります。

皆さんの旅の思い出に少しでも残れば幸いです。

光富から皆さまへ

いかがですか？初めての長崎をじっくり観光できるように、私が考えた他にはない「特別スタンダードコース」！

長崎観光で、ぜひ見ていただきたい場所を厳選し、私の経験と思いを込めて組み立てたのがこのコースです。

ひとつひとつの場所に意味があり、どれも外すことができないスポットばかり。そんな特別な思いを込めて、私はこのコースを「特別スタンダードコース」と呼んでいます。長崎の風情と歴史を心ゆくまで味わっていただけるよう、心を込めてご案内いたします。

車イスをご利用の方もどうぞご安心ください。できる限り快適な旅となるよう、細やかな配慮をさせていただきますので、事前にご遠慮なくお知らせくださいね。

なお、私ひとりで全てのご案内を担当しておりますため、ご希望の日時でのご予約はお早めにいただけると助かります。ゆったりとした時間をお客様と共有したいと考えております。

皆さまと長崎の魅力を分かち合える日を、心から楽しみにしております。皆さまのご予約を、心よりお待ちしております！

長崎観光専門 光富個人タクシー 光富英雄